



# 県民だより



第9号 ● 昭和58年2月1日発行 ● 編集・発行／栃木県企画部広報課 〒320 宇都宮市埴田1丁目1番20号 ☎0286-23-2159  
● 県人口／1,823,978人 男902,138人 女921,840人 ● 世帯数／505,356世帯 (昭和58年1月1日現在 概数)



西暦2000年。

それは、この子供たちが20歳になること。  
あなたは、どんな「栃木県」を思い描きますか。  
さあ、みなさん！ おもしろいおもしろいあなたのイメージをインプットしてみませんか。



は  
たの

# 未来設計

## ビジョン.....

それは、21世紀に向けて、みなさんが、いっそう豊かで、安全・快適な暮らしができるよう、県政の進むべき指針を示すものです。

### 人口

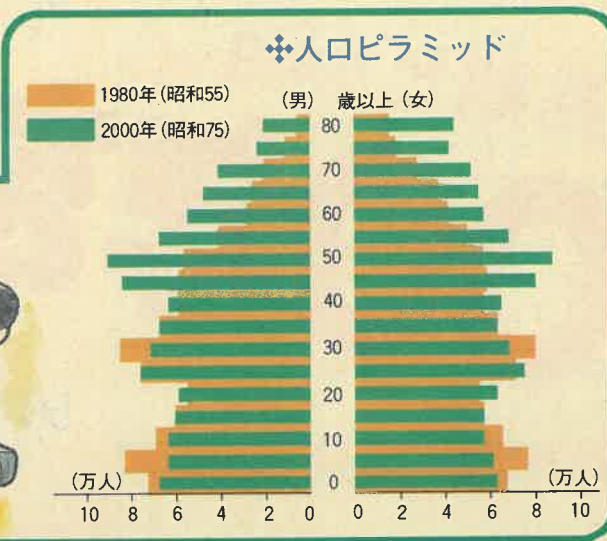
●ゆるやかに増加する県人口  
本県の人口は、工業化や都市化が進んだことと、第二次ベビーブームが重なり、一九七〇年代を通じて、年間二万人前後の増加を続けてきました。

五十五)の一七九万人から、一九九〇年(昭和六十五)には、一九三万人、更に、二〇〇〇年(昭和七十五)には、二一〇万人程度へと、ゆるやかな増加を続けるものと予測されます。

の世代)が年を経ていくとともに、大きく変化していきます。この人口の大きな波は、次第に力を弱めながらも、その子、孫へと二十五〜三十年間隔で繰り返され教育や雇用面など本県の社会・経済に大きな影響を及ぼしていくものとみられます。

●変わるライフサイクル  
生まれてから入学、就職、結婚、子供の誕生・独立などの節目で区切られた人生の道のりをライフサイクルと呼びます。このライフサイクルは、寿命が伸びたことや子供が二人程度へと減ったことなどによって大きく変化してきています。特に、子供の養育から解放された後の第二の人生とも言うべき時期が、男で二十年、女で三十年程度に増加し、人生の中で大きな重みを持つようになります。今後は、こうしたライフサイクルの変化に応じて、雇用、教育などの社会のしくみを組み立て直していく必要が出てきます。

●中成長時代を迎える県経済  
本県の経済は、首都圏の外郭部という立地条件、豊かな自然、便利な交通網、勤勉な県民性などを考えますと、内外ともに厳しい環境の中にあっても、まだ発展の可能性を十分秘めています。



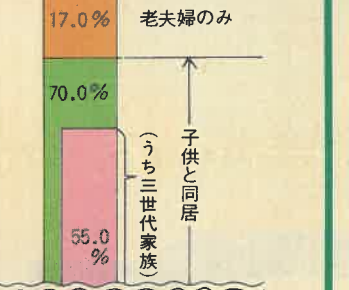
●大きく変化する人口の構成  
これからの人口構成は、第一次ベビーブーム世代(いわゆる団塊世代)が年を経ていくとともに、大きく変化していきます。この人口の大きな波は、次第に力を弱めながらも、その子、孫へと二十五〜三十年間隔で繰り返され教育や雇用面など本県の社会・経済に大きな影響を及ぼしていくものとみられます。

また、週休二日制の普及等に伴って労働時間はさらに短くなるといわれています。特に、女性の場合は、家電製品の利用等により、家事の省力化が進み、自由時間が一層増えていくとみられます。文化やスポーツなどの余暇活動が活発に展開されていくとみられます。

### 教育対象人口の見通し



### 高齢者同居等の見通し



●多様化、個性化する生活意識  
生活水準が向上したことによって、これからは、各人がそれぞれ自分なりの満足が得られる生活を求めていくといった、生活意識の多様化が進むものとみられます。

こうした条件を生かして、本県経済は、一九八〇〜一九九〇年で、年平均四・八%、一九九〇〜二〇〇〇年で四・五%程度の経済成長を遂げていくものとみられます。

●製造業等の第二次産業は、労働生産性  
製造業等の第二次産業は、労働生産性

こうした意識の多様化は、増えていく自由時間の過ごし方や、消費生活のあり方にも色濃くあらわれ、自分の生活を自分なりに彩っていく個性の時代になっていくとみられます。

### 県民生活

●創造性に富む心豊かな人づくり  
みなさんが、人生八十年という時代の中で、個性と能力を伸ばし、生きがいのある生活を送るためには、生涯にわたる学習条件の整備が一層重要となってきます。



このように、みなさんの生活は、大きく変化していきます。

### 健康で生きがいのある福祉社会づくり



みなさんの誰もが、等しく、生きがいのある幸せな生活を送れるよう福祉施策を進めていきます。

### 個性豊かな快適で暮らしよい郷土づくり



みなさんが、住み、学び、育て、やすらぎ、そしてつきあうといった身近な生活の場は、安全・快適で便利なものでなければなりません。

このため、みなさんの創意と自主的活動を基本とし、生活活動の広がりに応じて、住宅や、上下水道、公園、道路、教育文化施設、福祉医療施設等を、それぞれの地域の自然、歴史、文化等の特性を



# 栃木県超長期

# ビジョン



左から、高松、岩崎、森のみなさんと、船田知事。

## 2000年のふるさとに望む

先頃、船田知事と、本県出身の歌手・森昌子さんと、画家・岩崎

鐸さんが、「ふるさと談話」に花を咲かせました。その中で、「超長期ビジョン」も話題になりました。司会はおなじみ高松しげおさん。

知事 ふるさとをごらんになってどう思われますか？

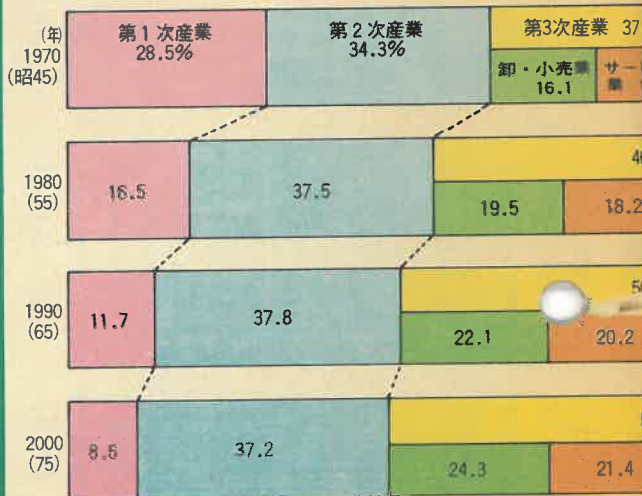
知事 はい。去年の全国植樹祭を契機に、緑を大切にしようという思いが深まっています。私も自然をできるだけ守っていきたくと思っています。

岩崎 若い人の集まる音楽会をたくさん開いてほしい。特に八幡山や大谷の採石場の中などで音楽会をやったら素晴らしいですね。

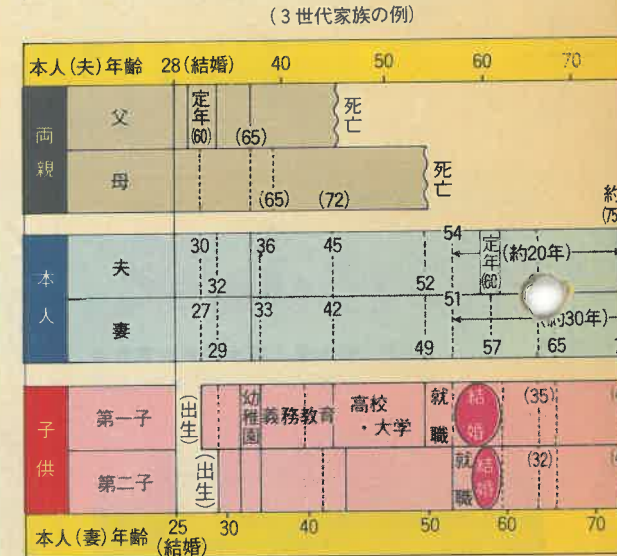
知事 そうですね。音楽そのものも違ってくるから、そうしたいことが実現すれば文化の香り高い県になると思います。

の上昇により、就業者の増加は小幅にとどまるものの、順調な成長を続け、二〇〇〇年まで、年平均で五%程度の成長を続けることと見られます。

## 就業構造の推移と見通し



## ファミリーサイクルの見通し



〒320  
40  
宇都宮市塙田一―一―二〇  
県庁  
総合企画室行

このビジョンは、みなさんとともに県政を進めていくための長期ビジョンです。このたび、「県民意識調査」や各

界各層の代表の方々からなる「ビジョン懇談会」のご意見等をもとに、中間的にビジョンの主要部分(案)をとりまとめました(七月公表予定)。この「県民だより」では、その要旨をみなさんにご紹介します。

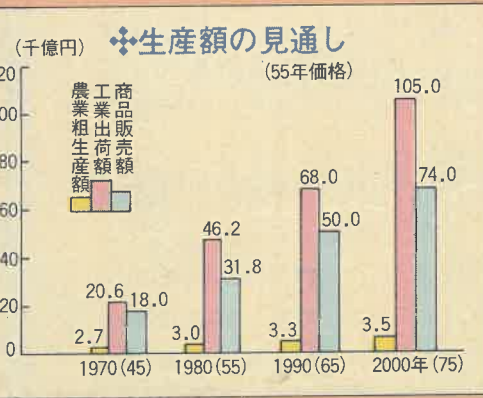
## 〇〇〇意見をお寄せください

このビジョンは、みなさんとともに県政を進めていくための長期ビジョンです。このたび、「県民意識調査」や各



みなさんが、どの地域に生活していても、住みやすく、暮らしやすい県土づくりを進めていきます。

## 調和のとれた緑豊かな県土づくり



このため、自然との調和に努めながら、社会の変化に十分対応していきける活力と創造性を備えた農業、商工業、サービス業等各産業の均衡のとれた振興を図ります。

## 活力と創意にみちた産業社会づくり



みなさんが、いつでも安心して暮らせるようにするためには、交通事故や犯罪、火災、自然災害等の発生を未然に防止していくことが最も必要なことです。

## 安心して暮らせる社会環境づくり

生かしながら整備してまいります。



# ご存じですか

## 巴波川流域下水道



昨年十一月に巴波川流域下水道の一部が完成し、供用を開始しました。この事業は、栃木市を中心として、壬生町(南部)、都賀町、西方村の一市二町一村を対象に昭和五十二年から着工したものです。下水道の整備は、市町村の仕事ですが、公共用水域の水質保全という面から、河川の流域単位に地形に順応して下水道を計画したほうが合理的な場合があります。このような場合に各市町村の行政区域にとらわれず、二つ以上の市町村が実施する公共下水道の下水を集めて処理するのが流域下水道

上流流域下水道、北那須流域下水道の整備を行っています。快適で暮らしよい環境づくりと、公共用水域の水質を保全するため、これらの事業が一日も早く完成するよう努力しています。流域下水道に関する事は、お近くの下水道事務所にご相談を。鬼怒川下水道事務所  
 〓 今市 0288 22266  
 〓 巴波川 〓  
 〓 栃木 0282 35115  
 〓 北那須 〓  
 〓 大田原 02872 35881  
 〓 中央 〓  
 〓 上三川 0285 7161

# 老人保健法

2月1日から

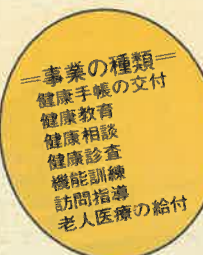
スタートします

今まで老人医療を受けていた方や、各種の医療保険に加入している七十歳以上(六十五歳からのねたきり老人等を含む)のすべての方が対象となり、お医者さんにかかる時には

外来の場合 一カ月四百円を月の最初の診療日に  
 入院の場合 一日三百円を二カ月を限度(被用者  
 保険本人は一万五千円を限度)として、払っていただくこととなります。

■なぜ老人保健法が誕生したのでしょうか。  
 日本のお年寄りの数は、年々増加し続けており、将来は世界一の高齢化社会となります。一方、老人医療費も、急激に増え続けていて、今年度は約三兆円に達するものと見込まれます。でも、今までの老人保健医療

は、全体として、医療費の保障に片寄り、予防から機能訓練までの保健サービスの一貫性が十分ではありませんでした。このようなことから、老人保健医療を、高齢化社会に合わせ



られるものとして見直し、保健と医療を総合的に一貫して行うために、老人保健法が制定されたのです。

■新しく健康手帳が交付されます。  
 今まで使用した「老人医療費受給者証」は、二月一日から使えなくなり、この替りに健康手帳(医療受給資格者証を含む)が交付されます。

健康手帳と健康保険証などを、お医者さんの窓口に出し、一部負担金をお医者さんに払っていただくこととなります。

■この内容について、くわしくお知りになりたい方は、市役所または町村役場の老人医療担当課へどうぞ。



### 重度心身障害者と母子家庭の医療費は無料

重度心身障害者と母子家庭の医療費(老人保健法による一部負担金)は、次により、年齢制限なく、生涯にわたり無料となります。

①重度心身障害者医療費公費負担制度  
 現在の年齢制限(65歳未満)を廃止し、65歳以上の老人の一部負担金を市町村条例により、公費で助成されることとなります。

なお、ねたきり老人については「身障手帳1~2級」程度と同程度の方が、この制度の対象となります。

②母子家庭医療費公費負担制度  
 70歳以上の母子家庭の一部負担金を市町村条例により、公費で助成されることとなります。

◇生活困窮等のため、一部負担金を支払うことが困難で、医療を受けられないような場合には、「愛の基金」などの活用により、きめ細かく対応することとしています。

## ズームイン

### 地域に根ざした活動をめざす ボランティア人形劇団「あさがお」

今年で結成3年目の人形劇団のボランティアグループ「あさがお」。全て馬頭町に住む働く若者たちで構成され、平均年齢が22歳という若いグループ。町立図書館が昭和55年5月に建設されたのを機会に「テレビ中心の子供たちにもう一度絵本の世界を取りもどそう」と12人の若者たちが集まったのがスタート。



町内の集会場や老人ホームで、年7回の公演も好評で、子供から大人にまで喜ばれている。レパートリーは、「泣いた赤鬼」や「赤ずきんちゃん」など6つの作品。団員たちは、週2回の練習や人形作り、巡回公演といそがしい。

また、3月に宇都宮市で開かれる「栃木県ふるさとの祭り」に向けて、馬頭町谷川地区に古くから伝わる民話「境の明神」の練習に余念がない。

地元を根をおろし、子供たちに喜ばれる劇団をめざしている団員たちは、今日も夜遅くまで稽古に励んでいる。連絡先 馬頭町立図書館長 松崎敬三さん(028792-5015)

## あなたの声をよせください。

県民相談員 加藤 博明

私たち県民相談員は、県の仕事への苦情や要望はもとより、日常生活でお困りのことの相談にも応じています。

相談は、電話や郵便で、また、直接おいでいただくなど、どんな方法でも結構です。私どもが市町村の役場などに出向いての相談を受ける日もありますので、ご利用ください。

ご相談されたことについては、固く秘密を守ります。どうぞお気軽にご相談ください。

中央県民センター 〓 宇都宮 0286(2)3765

県南県民センター 〓 栃木 0282(2)45665

県北県民センター 〓 大田原 02872(3)1555

### あなたの街から

## ウイークル栃木

- 毎週土曜日
- 午前7時~7時15分
- フジテレビ (8チャンネル)



### 同和問題啓発映画

## 輝ける山脈

〈企画〉栃木県・栃木県教育委員会  
 栃木県同和对策推進県民会議



同和問題について、県民のみなさんの理解を深めていただくため、16ミリカラー劇映画「輝ける山脈」を製作しました。

この映画は、栃木県が昭和55年度に実施した同和地区実態調査及び同和問題意識調査の結果や、県内で現実に起きている結婚差別事象等からストーリーを考え、劇映画として製作したものです。

研修会や会合など多くの機会にご活用ください。

〈上映時間〉57分

〈利用方法〉各教育事務所、県立図書館、県立足利図書館で貸出しています。

